

パブリックコメント（8期計画に反映を）

①いきいき元気サポーター

高齢者が高齢者を支える現状に、これからの登録者数、年齢層を考えても、かなり無理のある。サポーターは、高齢者に限らずもっと幅広い年齢層の方が登録できるようにPRした方がいい。

サポーターが減少している理由を考えないと、登録者数の増加は困難。

（具体的な取組みを明示）

定年退職を迎える方に対して、企業などにPRすることも必要。

（ボランティア、支え合いも同様）

②ボランティア

元気で働ける高齢者に施設等のボランティアをしてもらい、人手不足を補うのはどうか。

（ポイント制など）

就労をリタイヤされた高齢者は、人生経験が豊富でなので貴重な人材である。

リタイヤ後も活躍してもらうためには、社会参加を促すとともに参加しやすい仕組みを整える。

高齢者で元気な人は、社会や誰かのために役に立ちたいと思っている。

そのような人材の発掘ができるような対応を。

③通いの場

高齢者がお茶を飲んだり、会話をしたりレクリエーションを行えるの会合場所の充実。

行政や高齢者福祉施設などが、もっと地域との交流を持つことも必要。

④支え合い

支える側の意識を変えることが必要である。（どうしたら助けとなることができるか）

高齢化率が急速に進む中で、高齢者そのものの支援もちろん、担い手や経済的な負担も考える必要がある。

高齢者が介護を受けるという前提ではなく、元気な高齢者は、介護が必要な方へ介護や福祉を提供していくという考え方への転換や仕組みづくりが必要。

地域社会の希薄化により地域からの互助が得にくい状況なので、介護が必要となってから依頼するでは得られない。

対象者自身が元気に過ごされている時から地域の方と関わっていく意識づけが必要。

単身高齢者などはサービスを利用すると、近所の支援が減少してしまうので、地域での支え合いの関係作りへのサポートが必要。

⑤介護人材の確保

高齢者の増加に伴い、看護師や介護職員の確保がこれまで以上に必要になる。

高齢者施設では、慢性的な人員不足の状態である。

(行政の期待にどこまで応えられるのか不安)

介護人材への対策を。(人材の確保、人材育成、研修、外国人への対応など)

⑥その他

元気な高齢者を増やしていくためにも、高齢者自身の意識、家族、さらには市民、医療、介護関係者の意識の変化を。

限られた財源の中では、サービスの必要性を検討する必要があるのでは。

貴重な財源をどのように効率的かつ効果的に使っていくか、「いままでのしがらみ」に縛られることなく、施策の取捨選択が求められている。

同じ人が各事業に参加しているので、参加していない人、参加できない人を把握することも必要。

一般介護予防事業に、専門的な職種が介入していくことが望ましいのではないかと。

計画に記載してある専門用語、難解な表現等について、用語説明のページを設けてはどうか。

※周知方法、情報提供について(主なもの)

・サービスや事業が多いので、重点事業に絞っての周知をしたらどうか

・高齢者が訪れる病院やスーパーへの掲示

・市報、ホームページ、チラシ以外の方法を検討し、もっと積極的に周知していくべき。

